

様式第2号（第7条関係）

認定団体登録事業計画書

活動場所	赤野井湾流域内河川
解決したい地域の現状や課題	<p>古くからゲンジボタルが飛び交う町として守山は知られています。ホタルが飛び交う環境が続くよう、団体設立当初の方々の意見や知識を継承し、次世代のライフスタイルに合わせた関わり方を模索します。市民の環境意識をあげ、活動を持続可能な取組みにしていきます。</p>
今後の事業予定 (市ホームページに掲載する文章として記入ください 《600文字以内》) ※複数の事業を行う場合は、優先順位の高い順に記載してください。	<p>ゲンジボタルが飛び交う水環境を次世代に引き継ぐための事業を行います。</p> <p>◎小さな自然再生</p> <p>ゲンジボタル自生を目標に始まった活動でホタルの棲みやすい河川整備や実験、観察などを行います。また参加者の交流の場になる気軽にいつでも体験ができるものを目指しています。</p> <p>★水辺の学校、四季折々の水辺環境での自然体験と学習</p> <p>★ゲンジホタルや他の生きものが住める多様性のある川づくり</p> <p>◎琵琶湖とエコツーリズム</p> <p>琵琶湖を含む守山には素晴らしい自然があります。自然体験型環境学習で多くの方に知ってもらい、環境意識を高め保全につなげていきます。</p> <p>★赤野井湾探検会</p> <p>漁船で赤野井湾に出て漁師体験、外来魚の解剖と食性調査、湖上から赤野井湾の様子や景観を体験できる貴重な機会にもなっています。</p> <p>★守山の自然探訪</p> <p>市内をじっくり歩いて自然に触れる、探求心を深めながら健康にも考慮した企画を進めていきます。</p> <p>◎環境学習</p> <p>★ごみ拾いとマイクロプラスチックを考える</p> <p>琵琶湖のごみはどこから？自分たちの暮らしも考えていきます。</p> <p>★比べてみよう守山の自然</p>

	<p>市外の環境と比べることにより、良いところ、悪いの発見などを学んでいきます。また、市内問わず環境学習に取り組んでいる方や団体と交流し、市民とともに考えていきます。</p> <p>◎ホタルや水環境ネットワークづくりと PR 活動</p> <p>市内でホタルや水辺に関わる活動団体と連携し、市内河川に環境を整える活動を行います。また世界湖沼会議やシンポジウムなどへ参加し、環境学習活動をとおして守山を PR していきます。</p>
期待される効果	<p>水辺の環境学習を通し、子どもたちは楽しみながら市内河川の重要性を学ぶことができます。また保護者にとって市内河川に目を向け川の環境を知るきっかけとなり、河川の整備活動や琵琶湖及び市内河川のゴミ拾い等に参加することが期待できます。そして関心のある方には、事業実施時にスタッフとして参加をしてもらいます。継続的に参加するスタッフがいることで知識や経験が引き継がれ、守山市内河川の水環境が保たれホタルの生息地が守られると考えます。また、エコツーリズムでの自然紹介は県外の方にも魅力的な守山の PR にもなっていきます。</p> <p>このように持続可能な地域河川活動を行い、環境学習を通して、人と人がつながり、環境や自然に関心を持ち、その大切さを共有していきます。</p> <p>守山市があげている「環境学習都市宣言」、「ホタルが飛び交うまちづくり」、「琵琶湖・赤野井湾の湖底ごみの除去活動」など、私たちの活動に含まれているものが多く、今後も大きく貢献していくと考えています。</p> <p>市民向けの環境学習を通して、2024年にあげた「守山市セロカーボンシティ宣言」にあるように、2050年脱炭素社会の実現に向け、協力の一端を担えるよう進めていきます。</p>
事業実施体制	<p>理事長 金崎いよ子 副理事 田中仁一郎 専務理事（事務局長） 中明子 理事 金崎いよ子 他 12名 監査 佐藤育子、芝本伊三男 会員 326名</p>

事業の PR 方法 (寄附の獲得)	<p>守山市広報や当法人機関紙への掲載と、ホームページ、Facebook、Instagram、Xなどを活用しアナログ、デジタル両方向から幅広い広報活動を行う。</p> <p>事業毎にチラシ作成し、図書館などに配置。対象が児童、生徒の場合は教育委員会学校教育課の許可を得て各家庭への配信（配布）を行い、賛同者の獲得につなげる。</p> <p>各地で活躍する多くの元インターンシップ学生たちの力を借りて、本活動の周知と協力を依頼する。</p>
自立的・継続的に活動していくための工夫	<p>市民や企業および行政が一体となって、知恵を出し合い水質の改善や豊かな生態系および豊かな人間関係を築き、ホタルの棲む水辺のあり方を考え、自ら動き、行動できるよう、企業や行政からの継続的な支援を求めたいと思います。また、魅力的なイベントや学習などは企業の研修や学習旅行に活用でき、依頼料をいただけるように精度上げていきます。</p>
申請事業に対する補助金や委託料等 財源確保の取組み	<p>会員の会費や団体、個人の寄付など。</p> <p>収益の上がる事業を考え、売り上げを伸ばしていく。</p> <p>環境事業については民間の補助金や国の助成金なども活用する。</p>

様式第3号（第7条関係）

事業収支予算書（2026年4月1日～2027年3月31日）

【収入】

補助目標額（目標寄附額の1/2）

科 目	内 訳	金 額
補 助 金	守山市豊かな市民活動のまち応援事業補助金	745,000 円
自 己 資 金 (会費等)		0 円
事業収入 (受益者負担金)	水辺の学校（春夏2回） 参加者50名 30名（大人・小学生）×1000円×2回=60,000円 20名（未就学児）×500円×2回=20,000円 赤野井湾体験会 30名×3,000円=90,000円 守山の自然探訪 30名×1,000円=30,000円	200,000 円
その他の収入		0 円
収 入 合 計		945,000 円

【支出】

科 目	内容・積算根拠	経 費	
		対象外経費	対象経費
人件費	看護師謝礼、アルバイト料	円	270,000 円
報償費	講師謝礼	円	60,000 円
旅費交通費	交通費、軽トラ運搬費	円	60,000 円
消耗品費	清掃整備用具、教材、医薬材、事務用品、撮影機材、安全用具など	円	160,000 円
印刷製本費	印刷代、チラシ制作費	円	60,000 円
食糧費及び食材費	熱中症予防飲料など	円	45,000 円
燃料費		円	0 円
光熱水費		円	0 円
通信運搬費	イベント基材運送料、郵便費	円	30,000 円
手数料	銀行振込手数料	円	13,000 円
保険料	イベント保険	円	27,000 円
委託料		円	円
使用料及び賃借料	赤野井湾探検会船リース費用、施設利用料	円	150,000 円

備品購入費	パソコン購入費	円	70,000 円
	支 出 合 計	円	945,000 円

※年度毎にわけて記入してください。

事業収支予算書 (2027年4月1日 ~2028年3月31日)

【收 入】

補助目標額（目標寄附額の1/2）

科 目	内 訳	金 領
補 助 金	守山市豊かな市民活動のまち応援事業補助金	745,000 円
自 己 資 金 (会費等)		0 円
事業収入 (受益者負担金)	水辺の学校（春夏2回） 参加者50名 30名（大人・小学生）×1000円×2回=60,000円 20名（未就学児）×500円×2回=20,000円 赤野井湾体験会 30名×3,000円=90,000円 守山の自然探訪 30名×1,000円=30,000円	200,000 円
その他の収入		0 円
収 入 合 計		945,000 円

【支 出】

科 目	内容 ・ 積算根拠	経 費	
		対象外経費	対象経費
人件費	看護師謝礼、アルバイト料	円	250,000 円
報償費	講師謝礼	円	80,000 円
旅費交通費	交通費、軽トラ運搬費、世界湖沼会議旅費	円	180,000 円
消耗品費	清掃整備用具、教材、医薬材、事務用品、撮影機材、安全用具など	円	130,000 円
印刷製本費	印刷代、チラシ制作費	円	50,000 円
食糧費及び食材費	熱中症予防飲料など	円	45,000 円
燃料費		円	0 円
光熱水費		円	0 円
通信運搬費	イベント基材運送料、郵便費	円	20,000 円
手数料	銀行振込手数料	円	13,000 円

保険料	イベント保険	円	27,000 円
委託料		円	円
使用料及び賃借料	赤野井湾探検会船リース費用、施設利用料	円	150,000 円
備品購入費	パソコン購入費	円	円
支 出 合 計		円	945,000 円

※年度毎にわけて記入してください。

事業収支予算書（2028年4月1日～2029年3月31日）

【収 入】

補助目標額（目標寄附額の1/2）

科 目	内 訳	金 額
補 助 金	守山市豊かな市民活動のまち応援事業補助金	745,000 円
自己資金 (会費等)		0 円
事業収入 (受益者負担金)	水辺の学校（春夏2回） 参加者50名 30名（大人・小学生）×1000円×2回=60,000円 20名（未就学児）×500円×2回=20,000円 赤野井湾体験会 30名×3,000円=90,000円 守山の自然探訪 30名×1,000円=30,000円	200,000 円
その他の		0 円
収 入 合 計		945,000 円

【支 出】

科 目	内容 ・ 積算根拠	経 費	
		対象外経費	対象経費
人件費	看護師謝礼、アルバイト料	円	280,000 円
報償費	講師謝礼	円	80,000 円
旅費交通費	交通費、軽トラ運搬費	円	90,000 円
消耗品費	清掃整備用具、教材、医薬材、事務用品、撮影機材、安全用具など	円	160,000 円
印刷製本費	印刷代、チラシ制作費	円	60,000 円
食糧費及び食材費	熱中症予防飲料など	円	45,000 円
燃料費		円	0 円

光熱水費		円	0 円
通信運搬費	イベント基材運送料、郵便費	円	30,000 円
手数料	銀行振込手数料	円	13,000 円
保険料	イベント保険	円	27,000 円
委託料		円	円
使用料及び賃借料	赤野井湾探検会船リース費用、施設利用料	円	160,000 円
備品購入費		円	円
支 出 合 計		円	945,000 円

※年度毎にわけて記入してください。